

ハーモニー通信No.2号

あしたの風

発行：男女共同参画あきたF・F推進員・大湯村

TEL 0185(45)2114
2008.7 発行

戦後、日本国憲法のもとで、「男女平等・男女同権」が保障されました。しかし、私たちの身の回りで、そのことが達成されているとはまだまだ言えないのが現状です。平成11年に公布・施行された「男女共同参画社会基本法」では、「男女共同参画社会の実現を21世紀の我が国の社会を決定する最重要課題」と位置づけております。秋田県においては、平成12年に「秋田県男女共同参画推進計画」を策定、平成14年に「秋田県男女共同参画推進条例（ハーモニー条例）」を策定しており、村も国や県の施策に呼応して平成16年に「大湯村男女共同参画社会行動計画」を策定しております。国や県、市町村が「男女共同参画」を重要な課題としてとらえている理由として、少子高齢化に伴う労働人口減少のため、男性も女性も共に協力しないと、地域社会・国家が成り立たなくなることがあげられます。

では、「男女共同参画社会」とはどのような社会なのでしょう。男女共同参画社会基本法の前文に、このように書いてあります。

「男女が、互いにその人権を尊重し、責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会」

※「参画」という言葉には「意思決定権がある」という意味が含まれており、ただそこに加わる「参加」よりも深くその物事に関わっていこうとする決意が込められています。

出前講座IN大潟中

大潟中学校 2年A組にて7月7日（5.6時限目）
男女共同参画の出前講座が開かれました。

中学生の考え方を知るために事前に男女共同参画
に関するアンケートをとりました。

出前講座の目的は、男女共同参画の3つの寸劇
（脚本は石原敏子さん作）を見て、内容を考えても
らい感想や意見を話し合ってもらうことでした。
それぞれ男女混合で5人に分かれ、7グループのワ
ークショップでした。

3人のFF推進委員がそれぞれの劇を一人が30分で担当しました。

1の劇“放課後の教室”では、男子中学生を演じてもらうため、役場の薄井さんと大潟中の中川先生に参加していただきました。お二人が詰襟学生服を着て登場したときは、生徒から“わ〜”という声が上がって親近感を感じながらみてもらえました。内容は男子が花柄のファイルケースを持っていることでひやかされる場面と女子は“女だから”掃除がうまい！将来いいお嫁さんになれる！と男子にからかわれるという場面がありました。

男女共同参画の視点からは、花柄が好きだったらそれで良い！“男だから”、、、してはいけない！という固定観念は持たないほうがよい。また、家事、育児は“女の仕事”と決めつけないで協力すればよい。ということを考え、世の中には生まれついた生物学的な性別と社会的、文化的な性別（ジェンダー）があることを説明しました。

2の劇“介護”ではお祖父さんが倒れてしまい、そのお世話は“長男の嫁”がやるのが当たり前だと父が話し、それに対して娘が「仕事は両親が力合わせてやっているのに、看病だけお母さんに押し付けるのはずるいよ。」と言い、父がやっと協力してくれるという内容でした。

男女共同参画の視点からは、介護はお母さんだけが背負うものではなく家族皆で力を合わせると家族関係も良くなり、よい社会へと繋がっていくこと。これは介護だけでなく相手を思いやる！という何にでもあてはめて考えられることだと説明しました。

3の劇“将来について”の内容は、入植したおじいちゃんは長男だから農家の跡を継いで欲しいよなこと言うけど両親は自分で決めなさい。と言う。自分は将来どうしたらいいのか？と生徒たちが話し合う場面でした。

男女共同参画の視点では、男だから、女だからにこだわらず、自分の将来は自分が興味を持ったこと、好きな道を選ぶと良く、自分らしく生きることが大切です、と説明しました。

3の劇を見たあとは、女しかなれない職業、男しかなれない職業、男でも女でもなれる職業とい

う3枚の色模造紙に将来なりたい職業をそれぞれ全員が貼り付けました。

生徒たちは、それぞれの意見をはっきりと持って発表してくれました。

和やかな中にも考えてみる時間には緊張感もあり、生徒それぞれの発表は堂々としていてとても爽やかな素直な中学生達！という印象を持って終わりました。

そして、中学生の感想は…

事前アンケートの一部です



上記のアンケートの他に10の質問に答えてもらいました。

講座前のアンケートでは女子生徒も男子生徒も固定的な考え方が多く、子どもたちは入学前において、そして入学後も家庭において性別役割を強調する社会慣習になじんでいたと考えられます。

しかし、講座のあとのアンケートでは、

- ①「男女共同参画」や「ジェンダー」の意味を知ることができ、これからの生活に生かしたい、という意見が多く挙げられ、
- ②「男だから」とか「女だから」とか固定的な考え方ではなく、自分らしく、いきいきと男女平等の視点をもって生きていきたいという意見も多数を占めていました。

③仕事においても「女の仕事」「男の仕事」と決めつけないで、家族が協力して、いけば生活が楽になる、など気づきもあり、今回の大塚中学校での講座で、男女共同参画

私は、この「男女共同参画」の授業で、あらためて「何気ない差別」の存在に気付かされました。また、「生物学的な性別」と「社会的な性別」の違いが理解できたおかげで、何を「差別」と考えればよいか分かりました。つまり、男女の違いで「差をつけなければならない場合」と「差をつけてはいけない場合」の区別を、明確に付けられるようになったということです。

生徒の感想にも、「考えをかえるだけで差別がなくなってくる」「家族が協力していろいろな仕事を分担するのがあたりまえの社会になってほしい」など、一人一人が授業の内容を深く理解したことが分かる表現が見られました。これから社会に出て働き、家庭をもつ生徒たちにとって、とても大切な勉強だったと思います。

ところで、今回の授業で私がとても感心させられたのは、推進員の方たちの、授業にかける熱い思いでした。何度も打ち合わせを行い、練り合う。どうやって生徒の興味を引き出すか。どのタイミングでどんな話をするか。黒板をどう使うか。生徒にどんな質問を投げかけるか…。私たちの普段の授業にも生かしたい工夫が随所になされていて、とても参考になりました。とりわけ、生徒に語りかける、吟味された言葉の一つ一つ、表情、発声、どれをとってもすばらしいものでした。

また、推進員の方たちによる、手作りの劇も効果的でした。ごくありふれた会話でありながら、問題点をはっきり浮き立たせる構成のおかげで、生徒が自分のこととして、問題をとらえることができたのだと思います。

有意義なこの授業が、これからも継続して行われていくことを期待しています。

～編集後記～

中学生の素直で爽やかな姿勢に感銘を受けつつ、授業をした感触が消えない前に、と一気に取り組んだ「ハーモニー通信 あしたの風」の第2号はいかがでしたか？

普段、中学生と触れ合うことはほとんどなく、一体どんな生徒だろうか…？と不安を抱えつつ教室をくぐると、あたたかい拍手で迎えられ、恥ずかしいやら、ホッとしたり…。

大湍中2年生のみなさん、ありがとうございました！
勉強に部活に忙しいと思いますが、元気に自分らしく、毎日を過ごして下さいね。
またどこかで会ったら、声をかけてくれるとうれしいです。

(役場住民生活課 菅野)

☆各記事についてのお問い合わせはこちらへ☆

大湍村役場住民生活課 TEL 0185-45-2114 (内線 245) FAX 0185-45-2162